

一人ひとりの想いつたえたい >>> あなたの声でつくる情報誌

NO. **63**  
2006・夏号

# まなこ

企画・発行

武蔵野市企画政策室市民活動センター男女共同参画担当



## 特集 子育てと仕事と

### 取材

- 詩子さんちの場合は？ 山田 詩子さん
- 男性の育児休業— 仕事も育児も、バランスをとりながら 名取 謙さん
- その先を見つめて— 今は、この子との時間を大切に 井口 恵美さん

### 寄稿

- ・ 破鍋に綴蓋 (われなべにとじふた) まなこレポーター 平井 弥生

### 情報

- ・ 平成18年度予算 ・ 男女共同参画講演会のお知らせ 市民活動センター男女共同参画担当
- ・ 男女共同参画推進団体活動補助金交付対象事業の紹介

平成18年度の『まなこ』は、「ひとりじゃない！」を年間テーマに取り上げます。

忙しい現代の生活の中で、何もかも一人で頑張ろうとしてもストレスは増すばかりです。そんなとき、「ひとりじゃない！」と思えたら、きっと、一歩前に進む勇気がわいてくるのではないのでしょうか。

63号のテーマは、「子育てと仕事と」。

一人で抱え込まないで、ちょっと肩の力を抜いてみませんか。



山田 詩子さん

## 詩子さんちの場合は？

山田 詩子さん

吉祥寺を中心に紅茶やスイーツのお店を展開する有限会社のオーナー。商品の企画・デザイン・紅茶のブレンドを手がける一方、温かみのある作風のイラストレーター、絵本作家としても人気が高い。「紅茶好きのメニューブック」「ティータイムのイギリス菓子」「ぶたのチェリーのおはなし」など著書多数。

5歳と7歳の二人の男の子を育てるおかあさんでもある。

忙しくも楽しい子育て風景を熱く語ってくれた。

**仕事に追われる妻、8歳年下の夫**  
お菓子ばかりでなく、「ものづくり」が何より好き。普通の女子大生の就職活動には見向きもせず、国分寺の

スイーツ四姉妹  
長男は2年生、次男も幼稚園の年長になった。今はまだ少しでも傍にいて話を聞いてやりたいから、玄関にいちばん近い部屋の仕事机で絵筆を握り、打ち合わせも業務連絡も自宅で行う。そのためには、ともにスイーツのレシピなどを手がける姉のはるかさんの支えも大きい。  
四姉妹の次女として名古屋で育った。教師だった母は、育児も家事も同居していた祖母に任せきりで英語教育に打ち込んだ人。祖母が亡くなってからもスープの素をお湯で溶き、英語の詩集を読みふける母の姿に姉妹は自然とキッチンに立ち、いつしかお菓子作りに熱中するようになった。それぞれの道に進んだ姉妹だが、今では姉ばかりでなく、末の妹も店長として会社を支える。すぐ下の妹はフランスに渡り、パティシエとなった。「ここまでやってこれたのも、母が何も干渉せず好きなことをやらせてくれたから」と。

街角で大好きな紅茶や雑貨に囲まれた小さな店を開くという夢を実現。ちようど20年前のこと。今流行りの一坪ショップの発想だが、最初の7、8年は家庭教師のバイトをして凌いでいたほど。それが縁あつて吉祥寺に移って来てから急に風向きが変わった。新しい店を造り、紅茶に合うスイーツも次々に企画。雑誌や本の仕事も増えた。まさに仕事にまい進していたとき、8歳年下の夫と電撃結婚。そして、1カ月後にまさかの電撃妊娠となった。  
まだ大学院生だった夫に、当然のように家事や育児の負担がかかる。でも、それは生命理工学の研究者である夫にとってワンダーランドへの入り口でもあった。ある日、忙しい妻のアバウトな洗濯ぶりを見かねたように「ねえ、柄物と白物ちゃんと分けて洗ってる？」。洗剤の成分を一つひとつ確かめては感動し、赤ちゃんのお尻もどういふ角度で拭くときれいに拭き取れるか何度も実演してくれる夫。  
「自分の夫ながら、ほんといい人です。でも最初の1年間はずいぶん、学校休ませちゃいました」と振り返る。

Poco the little hippopotamus eats poppyseed cake.



### いちばんつらかったとき

2年後に次男が誕生。その頃は、長男の夜泣きがひどかった。3歳近くまで毎晩、昼寝もしないのに深夜1時間以上も泣き続けた。締め切りが迫って来るなか泣き止まない子を背中におぶって立机で絵筆を走らせた。やむなく次男の夜間の授乳はミルクに切り替え、夫の手に。哺乳瓶は一本一本立て掛ける位置まで検討され、夫の腕の中でたつぷりミルクを飲んだ次男は良く眠る赤ちゃんだった。



おぶったまま絵を描いていた時期もあった。そんなとき頭に思い描いたのは、子どもを背負って底冷えのする店に立ち通して働く、昔の魚屋さんのおかみさんのイメージ。不思議と背中が少し軽くなったような気がした。

その頃、商売仲間の書店の奥さんがベビーシッターを引き受けてくれた。買い物に連れて行って野菜や魚の名前を教えたり、自分の子どもたちと同じように心をかけてくれた。口数の少ない穏やかな人で「今日は2回うんちをしましたよ」と、余計なことは何も言わずにそっと子どもを手渡してくれる。そのさりげない優しさが、とても有り難かった。

### 明け方の時間、夕方時間

慌しい日常、最小の時間の単位は1.5時間と決めている。最小睡眠時間は、1.5×2の3時間。子どもたちのおしゃべりに耳を傾けながら、10時から4時までぐっすり眠れたら「1.5×4の至福の時間」。新しいことが始まるようなワクワク感のする明け方の4時が好き。家族の起きてくるまでの2時間ほどが、いちば

ん集中できる制作の時間だ。

最近、自分の研究室を持った夫だが、幼稚園のお弁当は率先して作ってくれる。子育てにすっかりかわって来た分、ゴミの分別をしっかりと教えて息子たちをゴミ出しのローテーションに加えることだと言う。

近頃、子どもたちが離れていくときが案外早く来るような気がして少しあせっている。「色の使い方とか傍にいて教えてやりたいことはいっぱい。自分の絵ももっと極めていきたい。出来合いのお惣菜やファーストフードは食べさせたくないけど、冷蔵庫に買い置きがない！そんなときに限ってトラブルの電話が……。夕方は、ほんと、つらいですね」

どんなに優しい夫がいても、働くおかあさんの思いは、皆同じなのかな。

取材 森治美



絵・山田 詩子

### 情報

### こんなとき、困ったとき ~ひとりじゃない~

#### ●夜中に子どもが急な発熱！

東京都医療機関案内サービス「ひまわり」へ！  
24時間、夜間受付の病院をお知らせします。  
→03-5272-0303

#### ●子どもを泊まりで預かってくれるところは？

こどもテンミリオンハウス「あおば」  
0歳から小学生まで  
7～22時（22時以降は泊まり）  
要事前登録  
→0422-28-1883

#### ●突然ママが入院！緊急一時保育は？

[0～2歳児]…すみれ保育室・風の子保育室  
[3～5歳児]…保育課へ問い合わせ  
申込み・問い合わせは  
子ども家庭部 保育課 0422-60-1854

#### ●ママだって時には一人の時間が欲しい！

近くで子どもを預かってくれるところは？  
→桜堤保育園、境南第2保育園、西久保保育園、こどもテンミリオンハウス「あおば」  
などで一時保育あり 要事前登録  
問い合わせは  
子ども家庭部 保育課 0422-60-1854

#### ●病気回復期の児童の預け先は？

病児保育室ポポ→0422-51-6030  
併設クリニック→0422-51-6022  
月～金 8～18時  
当日受付は16時まで  
利用料は【一日 5,000円】  
【半日 5時間以内 2,500円】  
要事前登録 市内800円でお迎えあり

※保育園・認可外保育施設等に入所中の児童が病気回復期などで集団生活が困難な場合に一定期間お預かりする施設です。

# 男性の育児休業 仕事も育児も、バランスをとりながら

名取 謙さん 境

育児・介護休業法（1999年施行）では「男性も育児休業（以下育児）を取得する権利が保証され、事業主は、育児の申し出や取得を理由に不利益な取扱いをすることを禁止」されている。また育児休業期間の延長は「当初の休業終了予定日の1カ月前に申し出れば、1回に限り延長可能」でも、男性の育児取得者は極めて少ない。そんな中、平成13年に誕生した長男のため、育児を取った名取 謙さん〔理学療法士〕の体験は？



休日には武蔵関公園へ。「未就学児と親にはボートの貸出が無料になるんです」

## 育児の申し出には、

ちよつと勇気が

出産前に、そのことは話し合いましたよ。育児はとれるか？ 期間はどうのくらいか？ 身体障害者センターの作業療法士である妻は「産休明けから、5カ月の育児を取り八月から復帰したい。なぜなら、秋のセンターの文化祭の準備は八月からスタート。自分は現場から抜けることはできない」と言う。私は八月から3カ月の育児を申し込むことになりました。病院に勤務している私は、父親として育児に専念する時間を経験しようという思いは固かった。でも、いざ職場への「育児休業取得の申込み」には緊張しました。今まで男性の育児取得者は誰もいなか

ったのです。ところが意外にもすんなり許可され、同僚たちの協力もあり、ホッと嬉しかったです。

## 子どもの成長段階が見られないのは、もったいない

私の育児期間は子どもは離乳食を始めており、野菜や魚をすりつぶして食べさせ、週ごとに変化していく子どもの表情や動きは驚くようでした。よく出かけたのは、0123はらっぱ、桜堤児童館、三鷹市立すくすくひろばなど。でも、どこも平日に来る父子は私たちだけ。はじめは、妻に逃げられた男と思われたかも……。それでも出かけることに抵抗がなかったのは、育児をしている男性を見てほしいという思いがあったからです。間もなくお母さんたちとも顔見知りができ、情報も広がりました。が、3カ月の育児はすぐに終わります。休業延長を考えましたが「それは困る。患者が待っているんだから……」と言われ、諦めました。すぐ保育室（当時無認可）に申込み、

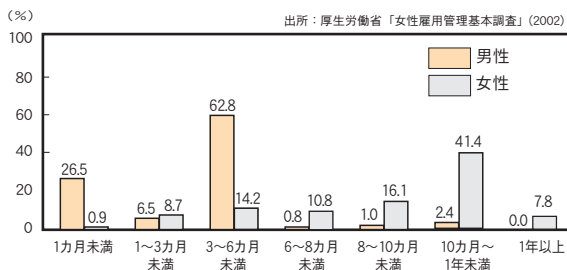
辛い育児中に「慣らし保育」を始めることができました。連れて行って帰るときに泣かれると気持ちが萎えますが、泣くことも成長の一つと考え、それも認めていました。

## 職場、友人、知人で男性育児取得者はまだ誰もいない

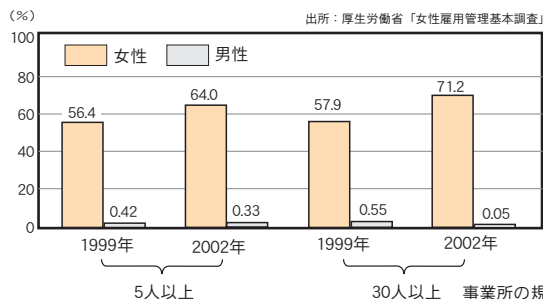
子どもは5歳になりました。私は昨年、武蔵野市内の法人に勤務を替え、妻は子どもの就学前の貴重な一時期を「もつとかかわりたい」と仕事を辞め、子どもを幼稚園に変えました。仕事ははずれ時期を見て戻るともりのようです。その後も私の周りでは、男性の育児取得者は誰もいません。どこも、職場に時間を喰われ過ぎているのでは？ 時間の希薄は、子どもとのかかわりだけでなく、夫婦の関係にも影響があると思います。最後に名取さんは言った。「育児に専念できた貴重な3カ月の善し悪しは、将来子ども自身が答えを出してくれるはず」。

取材 浜俊子(文)  
栗原恵子

育児休業取得期間



育児休業の取得率



中公新書「男性の育児休業」(2004年)より

# その先を見つめて ～今は、この子との時間を大切に～

井口 恵美さん 関前

「お仕事を最優先にしたいママ。自分だけの時間を持ちたいママ。いろんなママがいて、いろんな子育てがあっていいと思う。でも私は、碧ちゃんあおいのママと呼ばれることが何より嬉しい！今のこの生活を楽しんでいたい。ダメですか？」と井口恵美さん。幼稚園年長のひとり娘、碧ちゃんあおいのママだ。



「忙しい生活は充実していて楽しい♪  
人生楽しまなきゃね」

働くことは好きだけど……

結婚前は常勤の保育士や幼稚園の先生として、結婚後も職場や勤務形態は変われどずっと働き続けている。じつとしていられない性分。「生後9カ月で亡くなった父の分まで生きていきたい」と思うから。娘の休みと仕事が重なった日、「お子さんを預けて仕事に来てもらえないか」と頼まれ、仕事をしながら考えた。「娘と過ごせるすべての時間は娘のために使いたい」。その職場はやめ、今は娘が幼稚園の間だけ別の幼稚園で働いている。

待ち望んだ子どもだから

結婚後2〜3年経って真剣に子どもを望み始めた。が、なかなか授からず夫婦で病院に通い続けることになる。心身ともにつらい日が幾度となく訪れた。先が見えない時間は果てしなく長く感じる。目にする母子連れがまぶしい。6年後、やっとこの手に我が子を抱きしめた。「やっとパパにしてあげられたね」「やっとママにしてあげられたね」夫婦で喜び合った日は忘れない。かけがえのない我が子。泣き声もいたずらもすべてがいと嬉しい。泣きやまないときですら「泣く事は運動になるし、泣きつくすと気持ちいいわよ」と、泣き顔を笑顔で見守る。この余裕が育児を楽しむコツかもしれない。「子どもとくつついて話をしたり一緒に公園を走ったり、ご飯を作ったり、寝顔を見たりする時間が何より愉しく癒されるんです。子どもを預けて映画より、子どもと一緒にいろんな経験をし

たい。育てているって感じはやなくて一緒に楽しんでいたんです」。

つらい思いは一度だけ。自身の腹痛で乳児の我が子を抱っこできなくなったとき。が、連絡をきいて、夫は店を閉め2分で駆けつけ、実母は出先で頼んだラーメンが来たところを一口も食わずにとんで来てくれた。娘を思う気持ちは自分ひとりじゃない。心強かった。家事も快く分担しトイレやお風呂の掃除もしてくれる夫は、育児にも積極的。疲れたとか嫌だを決して言わない夫に心癒される。

最近、頼もしい小さな相談役も増えた。幼稚園にお迎えに行くとき「今日はどうだったの？」と娘に尋ねられるのだ。職場が、別の幼稚園というので娘の反応を心配していたら逆に心配されていた。職場の幼稚園で子どもたちのいさかいを話すと「その子はきつこう思ったのよ」と、園児の身になりきって娘が解説。

思いもよらない視点に驚かされる。

先を見据えて

子育てにひと段落したら保育士や幼稚園の先生に戻りたい。でも体力の要る仕事は将来的に継続が難しい。これからの子どもとの時間を大切にしたいから「出勤日の少ない医療事務の勉強を始めたんです」。無理なく自分らしく先を見つけていく。

取材 福井貴美子（文）  
松田理恵



情報

●子育て中の就職活動を支援してくれるところは？

マザーズハローワーク東京

10～19時（土10～17時）日祝休 渋谷駅徒歩2分  
仕事の相談・紹介、専任スタッフによる予約制相談あり  
各種セミナー、パソコン講習、保育施設等の情報コーナー、チャイルドコーナーもあり

03-3409-8609



イラスト 平井 弥生

〈寄稿〉

# われなべ とじふた 破鍋に綴蓋

まなこレポーター 平井 弥生



一緒にお茶を飲んでいた友人がいつせいに爆笑した。「夫が大好きだ」と言った時。本気なんですけど…。「家事は大嫌い」って言った時とは大ちがいだ。まるっきりのん気な主婦の屋下がり。

子を産むまで、自分ひとりで決定、実行し大金と大勢の人を動かすのが仕事だった。誰の力も借りず、多くの困難を乗り越えてきたという自負のかたまり。いつしかこれはヒトとしてヤバイと本能が働いたのか、飲み友達だった夫ととりあえず結婚。よく飲んでよく笑うおもろいオトコ、くらしいの認識しかなかったが、実は釣りが趣味で魚を捌くのはお手のもの。しかも日曜大工が上手で子ども好き、ということに気付いたのは出産後の事。

そのころもう一つ気付いたのは主婦って休暇が無い！これはたまらん、と週末の一日は働いて苦手な家事から逃れることにする。夫には感謝の言葉を大量。ありがとうありがとう。あなたが夫で本当に嬉しいわ、愛してるわ、じゃ行つてきまーす。本心は、大好きだった仕事を辞めて私が日々何をしてるのか、あなたにもやつてもらおうじゃないの！とも思っているのだが…。

帰宅すると洗濯物はきちんと畳まれ、子どもたちは食事と入浴を済ませている。夫の口元は少々への字だが、一応「おかえり〜」と声はかけてくれる。うん、上出来。やるじゃない。私の留守中、どうしてる？掃除は苦手だから散らかる前に公園に行つて子どもが眠くなるまで帰らない。洗濯は早く干して、乾いたものから着れば畳む枚数が減る。ご飯は頑張れる日は焼きそばかチャーハン、面倒ならハンバーガー。きつちりやると子どももつらいから栄養バランスとか隅のホコリとかは明日以降に任せた、と思つてるよ、との答。お気楽だねえ、と言いかけてやめた。

毎日やらなければいけない事こそ、肩の力を抜いて楽な気持ちでいようよ、と夫に言われた気がしたから。やれ片付かない、早くして、とイライラしがちな私を受け止めてくれてありがとう。ずっと、「善き破鍋」で在ってくださいよ。

## まなこ63号アンケートから

『まなこ』のアンケートはレポーターを中心にお願いしています  
(レポーターは毎年3月に募集)

### Q 子どもが少なくなったと感じること、少子化の影響だと思ふことなどありますか？

- ・働きつつ二人の子どもを産んだことが、驚き目で見られるのは、少子化の時代だからだと思う。
- ・増税や子育て支援の話を知ると感じる。今年から法律が変わって我が家でも児童手当がもらえるようになった。
- ・受験生の親として「2007年大学全入時代」という言葉を聞いたこと。
- ・自分の子どもの頃と比べて、小学校や中学校の学級数が少ないこと。
- ・親の目が行き届き過ぎて子どもらしい子どもが少なくなり、行儀の良い子が増えた気がする。子どもが欲しいものを、簡単に買い与えてしまう傾向があると思う。
- ・産婦人科も小児科も人が多く、本当に子どもが少ないのかなと思うことがあるが、新聞などで、小児科産婦人科医の減少という記事を見ると少子化なんだなあと感じる。
- ・マンションの駐輪場に子ども用自転車の台数が少なくなった。
- ・子どもどころか大人の姿も減っているような気がする。

### Q 「このひとことで、この子の笑顔で乗り切れた」と思ふのはどんなとき？

- ・「いいことも悪いこともずっと長くは続かない」と言った先輩ママの言葉。
- ・2歳過ぎまでは、病児保育室や「ひまわりママ」などの保育サービスに助けられた。子どものバイバイを励みに仕事モードへ。
- ・「子どもがいるからできない」と思わず「子どもがいたらこそできた」って思えばいいんじゃないの？という先輩ママのひとこと。
- ・小さな頃の表情を、寝顔や笑顔の中にかいまみて、家族が寝静まったころに思い出すと、エネルギーがぶつぶつとわいてくる。
- ・何かを始めたいと思っているとき「やってみたら」、何かをやめたいと思っているとき「やめればいいよ」。こんな家族からのひとことが背中を押してくれた。
- ・赤ちゃんを抱き上げて、桜の花を夫婦で見上げたとき、さずがってよかったと思った。あの時あの場所を思い出して乗り切っていた。
- ・つらいとき、母の後ろ姿、生活を考えれば、私の生活など母に比べれば楽と考える。

## ■ 平成18年度 男女共同参画施策予算

平成18年度市民活動センター男女共同参画担当の予算は11,621,000円です。内訳は、

- ①男女共同参画推進市民会議費 756,000円
- ②むさしのヒューマン・ネットワークセンターの管理運営費 5,733,000円。男女共同参画問題に関する市民・団体の自主活動・情報交換・ネットワーク化などを促進。管理・運営委託料、光熱・電話・回線通信費、複写・印刷機借上料など。
- ③男女共同参画施策事業 5,132,000円  
講演・講座実施。男女平等情報誌『まなこ』作成。男女共同参画推進団体活動事業補助金など。

## ■ 男女共同参画講演会のお知らせ

### 「技術系で働くということ “私の仕事” 女性技術者」

**日時** 9月2日(土) 14:30~16:30  
**場所** 武蔵野商工会館市民会議室(吉祥寺駅北口から徒歩5分)  
**講師** 三上かおり：理学博士、ピーエスピー・リサーチ代表  
 杉山江理子：(株)インターナショナルシステムリサーチ プロダクト事業部 事業部長  
 瀧澤由美子：(株)東芝ディスプレイ 部品材料統括燃料電池開発推進プロジェクト所属  
 仁田 工美：博士(工学) 宇宙航空研究開発機構総合技術研究本部所属

**内容** 日本女性技術者フォーラムに所属する4人の技術者から、それぞれの仕事の紹介をおし、女子中高生にもわかる女性技術者の職業・将来像をお話しいただきます。また、各技術者の方からの相談・アドバイスをいただける時間も予定しています。

**定員** 中学生以上 90名  
 保育7名(1歳以上学齢前まで)  
**申込み** 先着順(定員になり次第 締め切り)  
 はがき・FAXで(記入例をご参照ください)  
 保育希望者は8月25日(金)までに

## ■ 17年度 男女共同参画推進団体 活動補助金交付対象事業の紹介

これは男女共同参画推進団体が男女共同参画社会の実現に向けて行った研修・調査・研究等の活動に対し、経費の一部を補助し、活動の活性化と市の施策の推進を目的としています。

補助金の交付は、1団体各年度1回、上限5万円です。申請団体が多数の際は、交付されない場合もあります。手続きは市民活動センターへお問合せください。

[17年度申請の10団体] (①団体名②内容)

- \*①武蔵野ブラショフ女性問題研究会 ②男女共同参画シンポジウム「スポーツ大使・女性選手たちは」
- \*①Yū・ゆう ②おひざのうえのコンサート親子で楽しむクラシック
- \*①生活クラブ・グループ創 ②講演会「お母さんの可能性・自分再発見」
- \*①むさしのスカーレット ②10周年記念「輝け!! 女性たち—今を見つめて 明日へ—」
- \*①コアラ文庫 ②参加型の英語劇「Living Together」
- \*①らっこの会 ②講演会「ブレ思春期!?うちの子は大丈夫?」
- \*①国際ソロプチミスト武蔵野 ②講演会「子どもの人権のために」
- \*①みんなでkids陶芸 ②子育て支援イベント「男女共同参画で楽しい子育て! 子育てマンボ」
- \*①子どももおとなも楽しむ生活プロジェクト ②子育て情報マップ作成の基本データ調査(トイレ、スロープ・エレベータ等の所在場所)
- \*①NPO法人ウィッシュ・プロジェクト ②女性問題に対する支援の調査結果をデータベース化しマニュアルを作成。

(保育希望の場合)

① 男女共同参画講演会  
 ② 住所  
 ③ 氏名 (ふりがな)  
 ④ 年齢  
 ⑤ 電話番号

(保育者の性別)

⑥ 保護者の性別  
 ⑦ お子様の氏名 (ふりがな)  
 ⑧ お子様の生年月日  
 ⑨ お子様の性別

講演会申込み  
 (記入例)



### 子どものために仕事をやめたり、自分の生活を変えざるを得なかった体験は? 今振り返って「こうすればよかった」「こうしてよかった」と思うことは?

- ・子育てに追われていたときは、自分のことは一切後まわしで子どもが寝てからが自分の時間。当時は大変だったけれどもにもに密度の濃い時間を過ごしたことは、かけがえのない思い出だ。
- ・子どもともっと一緒にいたくて仕事をやめたいと思ったことは何度もあるが、何とか乗り切ることができた。今となっては続けてもやめても両方よいことがあったと思う。
- ・仕事をやめたとき一日でも早く社会復帰しようと思ったが、今は子育ての中で、地域の暮らし方や医療や福祉も「こうすればもっとよくなるのに……」と自分なりの意見をもてるようになった。夜中に救急がかけこんだり、幼稚園入園で補助金の自治体格差に気づいたりする中で培われてきたと思う。大変だけど、子育てとじっくり向き合うことで本当の社会参加ができてよかったと思う。
- ・スムーズに仕事復帰できるよう、資格取得など勉強すればよかった、しようと思っている。
- ・子どもが中学生までは仕事をせずに、子どもが帰宅した際に必ず「お帰り」と迎えるようにした。子どもも家に帰宅してホッとできたようだし、親子の会話も多かったように思う。
- ・結婚のために退職し、専業主婦をしてきた。子育てと仕事を両立できるほど器用ではないので、こうしてよかったと思っている。専業主婦も立派に社会参加できていると思っているし……。
- ・子どもと過ごす時間は大切にしたいと思って仕事をやめた。子育ては思った以上に大変。こうすればよかった、こうしてよかったと思える日々が早くきてほしい。

●石丸 俚恵子 (30代)

家事と育児の忙しい日々、新たな経験とさまざまな不登に心が揺れ動く複雑な心境です。何かできることを自分なりに頑張ってみようと思います。

●上田 孝彦 (70代)

老いてはいますが、新人投手の初登版と同じで何をしたいのかわかりません。結果を考えず全力投球あるのみです。よろしくお願いいたします。

●上野 敏子 (75歳)

『まなこ』の会議で若い世代の考えを知り、お互い切磋琢磨して、より良い『まなこ』を作りたい。改めて初心に戻り、今年も自分がしっかりと前向きに生きたい。

●後藤 瞳 (27歳)

出産育児のため仕事を退職後は、社会に取り残されているような気持ちでした。

『まなこ』を通して社会とのつながりを持ってたらと思います。

●田村 恵子 (52歳)

大好きな武蔵野市に住んで12年。娘も成長し地元の方との交流も減ってきました。

『まなこ』の活動を通して情報を発信したり、たくさんの方と出会いたいと思います。

●平井 弥生 (41歳)

少しずつ気長に、をモットーに「ダ・ヴィンチ・コード」を1年こしてやっつこ読破。武蔵野で働き、『まなこ』と「0123」に出没する小金井市民です。どうぞよろしく。

●真壁 正江 (40代)

5年ぶりにレポーター再登版。出産後、育児と仕事の生活を経て、昨年は育休以来の地域中心の生活に戻りました。子育て世代の視点も加え、誌面作りに協力できればと思います。

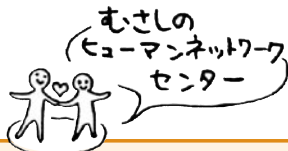
●森 淳子 (30代)

住んでいる街のことをもっと知りたくて応募しました。『まなこ』を通じて、身近で貴重な情報をお伝えできればと思っています。

レポーター会議風景



4月18日(火) 10:00~12:00  
市役所第606会議室にて



ほん 今回のテーマに関する本を、むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書の中から

●ワーキングマザーと子どもたち

久田 恵 著 ちくま文庫



働きながら子育てを続ける母親たちの迷いや後ろめたさ、父親への憤り……そしてそんな母親を支えている子どもたちをめぐる30の話とエッセイ。「親にできることは、自分の選んだ人生を生ききってみせること、そしてたとえいろいろな困難はあっても、生きるとはかくも面白いことだと身をもって伝えてやること」と語る著者からの、働く女性とその子どもたちへの応援のメッセージ。

●共働きの子育て読本

すぐに役立つ情報とアドバイス しがはら 鴨原 洋子 著 PHP研究所



仕事もしたい子どももほしい。「なにかと負担の多いお母さんたちに、ちょっと視点を変えてみてほしい。女と男が幸せに暮らし、子どもを良く育てようと思ったら、これからは真の意味で両方とも自立しなければいけないのでは……」と語る著者。妊娠・出産・乳児期・幼児期・小児期・暮らしの演出・家事の工夫について、仕事と育児の両立と充実のための工夫とアドバイスがいっぱい。

武蔵野市境2-10-27 武蔵野市政センター2階 TEL・FAX 0422 (37) 3410  
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL [http://www.clipcraft.or.jp/m\\_hnc](http://www.clipcraft.or.jp/m_hnc)

STAFF

レポーター	石丸俚恵子・上田孝彦 上野敏子・後藤 瞳 田村恵子・平井弥生 真壁正江・森 淳子
取材・編集	森 治美(編集長) 栗原恵子・戸田真帆子 浜 俊子・福井貴美子 松田理恵
☆他にもたくさんのアンケート協力員、編集協力員に支えていただいています。	
レイアウト	小井戸厚子
イラスト	本田 倫
印刷	社会福祉法人 東京コロニー

お詫びと訂正  
05年7月15日発行『まなこ』59号6頁寄稿の「生垣のある通り」の12行目に誤りがありました。お詫びして、訂正します。誤：油脂↓正：油粕

●10月発行予定の64号では、健康維持と介護の問題について考えます。

★新しいスタッフを迎え、ますます熱くなってきた編集会議。ふと気付くと、季節は夏に変わっていました。(森)

★39度の発熱でも学校に行きたいと泣く小3の娘の横で、高3の娘は休むからと37度の体温計を持ってきた。(福井)

★誕生したときのことを想ったら、息子にも笑顔になれる。結婚式のことも思い出さなげや。…そのための写真立てか！(松田)

★数年ぶりに編集に参加。『まなこ』の目線で見、考える緊張感を味わっています。が、時間が駆け足で過ぎていくようで……。(浜)

★数年ぶりに故郷の友からメッセージが届いた。「私と巡り会ってくれてありがと」と嬉しくて涙がホロリ。ひとりじゃないっ！(戸田)

編集後記

★編集スタッフとなり、取材に初めて同行させていただいた。新鮮な気持ちで、『まなこ』63号の発刊に立ち会いたい。(栗原)

